

平成 29 年度公益社団法人日本水環境学会東北支部講演会

- 実施報告 -

報告者 公益財団法人宮城県公害衛生検査センター 相澤 幸太

平成 29 年 5 月 13 日(土)14:30~17:00、仙台市戦災復興記念館 展示ホールにおいて標記講演会を開催した。参加者は 41 名。

矢野支部長の挨拶で開会、講演 1 では平成 28 年度東北・水環境保全賞受賞記念講演、講演 2 では「被災地における放射性物質による環境汚染の現状と環境回復に向けた取組」と題し、林 誠二様よりご講演頂いた。

講演 1 平成 28 年度東北水環境保全賞受賞記念講演

「川を知る会」活動記録 ～川と親しみ、川の大切さを学ぶ～
川を知る会 檜山 稔 氏

「川を知る会」は平成 13 年に発足し、岩手県紫波町のお父さん方が中心となって活動している。地域を流れる北上川の活動を通して、世代間交流や子供達の健全育成に取り組んでいる。

活動の内容として

①ゴムボートでの舟下り体験

②カヌー体験

①、②においては、生息する生物観察や北上川流域の歴史を学びながら体験を進めていく工夫がなされていた。

③川流れ体験

④川歩き体験

③、④は、実際に川に入り、川の流れを体感し、川の危険性と安全な対応法を学んでいた。

⑤小繰舟の運行活動

小繰舟はかつて、物資運搬のため北上川を往来する川船であった。この小繰舟(ごんべえ丸)を復元し、実際に乗船することで、当時の人々の知恵や苦勞を体験し、学んでいた。

⑥川の清掃活動

同会は活動の幅を年々広げており、時には盛岡など他の地域でも出張体験を実施している。これら会の活動は、地域の子供たちの育成や、会の目的でもある「ふるさとの創造」を実践する非常に素晴らしい内容であると感じられた。



写真 1 講演中の檜山氏

講演2 「被災地における放射性物質による環境汚染の現状と環境回復に向けた取組」

独立研究開発法人国立環境研究所福島支部 研究グループ長 林 誠二 氏

東日本大震災による福島第一原子力発電所の事故にともなう放射性汚染に関し、福島県内の汚染実態及び環境回復への取組みについて講演が行われた。

森林域における放射性セシウムの挙動としては、主に土壌表層面に吸着し、地下水等への汚染は非常に少ない。しかし、地形的に除染が困難で、影響が長期的になることが考えられる。また、樹木等への吸収による循環の実態とその推移を把握していくことが、今後の課題となっている。

河川水系の場合、放射性セシウムは懸濁(SS)態として多く存在し、その濃度の推移として、年々低下しているとのことである。また、ダム湖においては、底質へ貯蓄される傾向があり、ダムの貯留機能を活かし、下流への拡散抑止作用の役割を果たしている。しかし、河川水中においては溶存態セシウムの濃度が懸濁態セシウムを大きく上回っており、かつ、その濃度は今後大きく低下していく見込みがないことから農作物や水中生態系への影響が懸念される。

今後の取組みとして、現行の放射性セシウムのモニタリングの在り方を再構築し、最新の科学的知見を踏まえたモニタリングを実施し、研究等へ活用していくことが必要である。また、放射能汚染廃棄物の適切な処理に向けた取組として、減容化及び処理残渣の有効活用が研究されている。

最後に、環境回復後の環境創生のための取組みとして、エネルギー代替としての木質バイオマス利用等の森林資源を主とした地域資源の活用例が示された。

放射性物質による環境汚染状況の詳細な実態把握から将来的な地域創生に至る、長期的かつ有効的な取組みが、これから十分に活かされていくことが重要と感じられた。



写真2 講演中の林氏